

一 事業主側

事業主側ニアリテ八月五日争議団側ノ最終案ナリトシテ
告マシテ妥協案ニ對シ八月六日重役側ニ於テ對策協議ヲ遂ケシ
ルニ會社側ノ案ヨリ絶對ニ譲歩ノ念地ナシトナレ飽達會社案
ヲ支持スルコトニ決意セリ

二 争議団側

従業員側ハ月島大森千住三工場共罷業ヲ繼續中ニテ何レモ
結束ヲ固メツ、アリリ月島工場ニアリテハ八月六日會社内ノ
煙突約四十尺ノ処ニ三三四方位ノ赤旗ヲ揚ケ且惡鉛板ニテ大
人六ノ人形ヲ作成シテ吊リ下ケ共働歌ヲ高唱シ石油權ヲ叩
キテ氣勢ヲ揚ケツ、アリリ

戦術一例

三 交渉状況

争議団側代表原虎一油善ニ外工場各代表十三名ハ八月六

日午後三時ヨリ會社ニ於テ支配人池田及五郎及小林社員ノ兩
名ト會見交渉ヲ開始セルモ會社側ハ被解雇者ハ合計三十二名
トシ解雇手當金ハ全一卦トシテ全一萬円支給シ固持シ争議団
側ハ解雇者ノ數ノ向題ニ依リ解雇手當金トシテ六ヶ月分及特
別手當金トシテ二ヶ月半分(計八ヶ月半分)ヲ要求シテ讓ラ
ス交渉進展マサル為メ會社側ハ小委員会ヲ以テ臨マレタキ昔
ヲ提議シタルニ争議団側ハ各々ニ誠心敬意ヲ以テ交渉解決ニ
當ルヲ以テ小委員会ト何等相違ナキ昔ヲ述ヘ双方協定ニシテ
妥協致ラス再會ヲ約シテ今五時ニ先打切レリ

右及中(通)根拠也